

独立行政法人統計センター評価に関する有識者会議〔議事要旨〕

1 日 時:平成 27 年 7 月 24 日 (金) 15:00～16:30

2 場 所:総務省第 2 庁舎 6 階特別会議室

3 出席者:(有識者) 廣松毅 (座長)、岩下真理、引頭麻実、木村直人、小林稔 (敬称略)

(総務省統計局) 井波統計局長、千野大臣官房審議官、會田統計調査部長、井上総務課長

(統計センター) 山田経営審議室長、小澤参事 (経営企画担当)

4 議 題: (1) 平成 26 年度に係る業務の実績に関する評価 (案) について
(2) 第 3 期中期目標期間終了に伴う平成 25・26 年度に係る業務実績に関する評価 (案) について
(3) 総合評定 (案) について
(4) その他

5 議事概要:

(1) 総務省統計局から平成 26 年度に係る業務の実績に関する主務大臣による評価 (案) の説明が行われた。

(2) 平成 25・26 年度に係る業務実績に関する評価 (案) の説明が行われた。

(3) 質疑が行われた後、総務省統計局から総合評定 (案) について、説明が行われ、項目別評定及び総合評定ともに妥当であるとの意見で一致した。

(4) 有識者からの主な意見等は以下のとおり。

○住民基本台帳、都道府県委託業務が評価の対象外となっていることについて、今後、コンピューターによる自動集計処理を行う業務が増えた場合にも対象外とし続けるのであれば疑問である。実績としてどうであったかという観点からも対象に含めるべきではないかと思うので、次年度以降、検討いただきたい。

○再集計となった場合の再発防止策について、当該調査だけでなく、他の調査でも起こるリスクとしての対応等を含めた、センター全体としての取組に関する記載があるとよいのではないか。

○事業所母集団データベースの整備・運用管理について、登録情報を実施した件数が、大幅に増加していることを高く評価する。しかし、件数の増減を評価するという視点については今後工夫する必要があるのではないか。

○オーダーメイド集計について、金額や件数が増えている点は高く評価する。しかし、統計センターが本来期待される役割には「利用環境の整備」があり、そのような点も評価理由に含めた方が職員へのインセンティブになるのではないか。

○予算について、評価の視点として「適正な財務管理」が挙げられ、経費削減目標や人

件費の説明をされているが、もう少し視野を広げてはどうか。財務管理という観点からは、バランスシートや財務資料全体を見通した形で、経費面や資産面、例えば今回リースで大きな投資をしているが、一般的な水準であるかどうかといった視点などがあるのではないか。

○随意契約については件数もさることながら、全体に占める一者応札の金額ベースでの割合を下げるように取り組んでほしい。

○「総合評定（案）」については、異存ない。しかし、当該期間内に達成した実績、次年度の評価につながる内容をもう少し書き加えてもよいのではないか。

以 上